

すへからす、たとひかるき旅人たりといふとも大切に思ひ、あやまちなき様に念を入へき事、

【史料2】

(表紙)

森五郎作

川 年代記録 上

(中略)

定

一、役船如相定無懈怠出之、昼夜可相勤事、

一、往還人多時者よせ船を出し、人馬荷物等滯入精可渡之、奉公人之外舟賃出す輩より人老人ニ拾文、本荷馬一駄口附共ニ拾五文、軽尻馬壹疋口附共ニ拾貳文可取之、此定之外賃錢多く不可取事、

一、荷物附ながら馬を船に不可乗事、

右條々於令違背者後日に相聞といふとも穿鑿之上可被処嚴科者也、

宝永六年丑三月 奉行

(後略)

【史料5】

定

一、役船御定のことく懈怠なく出し昼夜相勤へき事、附、往来之旅人に對しかさつ成事、

一、所持船拾四艘
但、馬船八艘、歩行船六艘

一、往還人おふき時ハよせ船を出し、人馬荷物等滯りなく渡すへし、奉公人之外船賃出輩より老人拾文、荷物老人拾五文、乗掛荷ハ拾貳文、これを取へし、此定之外賃錢多取へからざる事、

附、奉公人之外ハ定之通賃錢出す筈に古來より定置候間、職人町人商人との荷物ハイふに及はす、武士荷物たりといふとも

商人請負にて相通候分ハ定のことく賃錢これを取へき事、

一、荷物附ながら馬を船にのせ候儀相對次第たるへき事、右條々可相守之、若於相背者可被行罪科もの也、

正徳元年五月日

奉行

【史料7】

(表紙)

「壬寛政四年

御用留

子正月吉日

(前略)

覚

東海道川崎宿

六郷川

右之内

平日馬船式艘、歩行船式艘

川崎宿方

内壱艘急御用船

同馬船式艘、歩行船式艘

江戸の方

内壱艘急御用船

残り六艘^者渡船場下之方ニ差置、御用御通行多キ節一同渡船仕

候、

一、定抱水主式拾四人

是ハ昼詰拾六人^{ニ而}双方八人宛、夜詰八人^{ニ而}双方四人宛相勤申

候、

一、会所詰役人四人

一、水主頭四人

右四人之もの両川端ニ罷在、昼夜日勤仕候、但扶持給金之儀^者請

負人方差出申候、

一、渡船場貢錢壱ヶ年請負高 金四百八拾兩

一、四割増貨去子年壱ヶ年高 錢六百五拾八貫六拾五文

内三割上納仕、壱割^者宿方へ被下置候、

一、年中船打金出洲浚乗場揚り場普請入用之儀^者宿方方差出申候、

一、品川宿問屋継人馬之分^者船貨取不申候、此外往還稼人馬之分^者船貨

取り申候、

一、御武家様并御朱印御証文^{ニ而}御往来之御方^者船貨請取不申候、此外者

不残船貨請取申候、

一、御成之節江戸方前日御船來り候

一、遠馬十騎已上之節、古市場村・上平間・上丸子三ヶ村方御役船壱艘

宛被仰付候、

一、御両卿様出御之節外御往来込合候得者、右三ヶ村^江役船被仰付候、

一、出水之節馬越歩行越相留候^者水竿三間^{ニ而}届兼候^{ニ付}、御状箱并御往

来共水干渴^ニ相成候迄通路無之候、

一、御大名様御通行御差添之節外村方方借り船仕候、尤此分別段ニ御目録被下候、

元賃錢

荷物壱駄

錢拾五文

乗懸荷

同拾式文

壱人

同拾文

四割増

本馬壱駄

同式拾壱文

輕尻壱疋

同拾七文

壱人

同拾四文

右御尋^{ニ付}、書上之通相違無御座候、以上、

寛政五丑年十月

大貫次右衛門支配所

武州橘樹郡川崎宿

船役人

喜右衛門

同

甚四郎

名主

七郎左衛門

同

三右衛門

早川兵吉様
河野權次郎様

右御両所様^者道中御懸り之御普請役様也、此度宿々問屋場川場とも御

糺有之御通行

(後略)

【史料8】

証文之事

- 一、金三百六拾八兩也
外割増六百三拾二貫文

但、戌十一月十五日方亥ノ五月五日迄之間請負金高

右者當宿渡船場賃錢請負金高書面之通^ニ兩、當戌十一月十五日方來亥ノ五月五日之間請負申處實正也、右金錢高左之月割之通差出シ可申候、勿論
右敷金として金貳百兩之儀^者來ル亥ノ五月六日方巳ノ五月五日迄渡船場
請負候付、右之分江金貳兩差出シ申候間、万一御用勤方之儀籠未有之
候歟、又^者月揚金壹ヶ月成とも相滯候ハ、別証文^ニ而差出置候敷金損金^ニ
可致候間場處御取放シ可被成候、其節一言之儀申間敷候、為其仍如件、

天保九戌年十一月 六鄉川渡船場請負人

川崎宿

百姓 五兵衛^(印)

池上新田

名主 直蔵^(印)

川中嶋村

百姓 三左衛門^(印)

錢六百七拾貳文

是^者右同断、御大名様方御拝領并御雇船代之分

メ金百九拾貳兩三分永百貳拾五文

錢四千七百九拾六貫壹百七拾貳文、但金壹兩^ニ付錢七貫文かへ

此金六百八拾五兩永百六拾七文九分

月揚金之覚

一、金八拾五兩卜錢百貫文

一、同八拾五兩卜錢百三拾三貫文

一、同四拾貳兩卜同百三拾三貫文

一、同八拾壹兩卜同百三拾參貫文

十二月廿日

武口 合金八百七拾八兩永四拾貳文九分

此遣払

金五百七拾貳兩

正月晦日

二月晦日

三月晦日

一、同七拾五兩卜同百二拾三貫文 四月晦日
(後略)

【史料9】

(表紙)

「文政三年年

六鄉川諸入用請払仕上勘定帳

十二月

東海道

六鄉川

是ハ卯五月方辰四月迄壹ヶ年文御伝馬役金宿方江差出申候

錢四百八貫文 但金壹両ニ付錢七貫文かへ

此金五拾八両壹分永三拾五文七分

是ハ武割増錢七百九拾九貫武百四拾八文宿方江可差出処、近年錢

相場下直ニ付宿方相談之上残錢三百九拾壹貫武百四十八文引方之

分日入錢一同ニいたし渡船場諸払金相成候、

金四拾武両

是ハ卯五月方辰四月迄壹ヶ年分

水主武拾四人給金、但老人ニ付金壹両三分宛相渡申候、

金拾四両

是ハ肝煎四人給金、但老人ニ付壹ヶ年分金四両宛相渡申候、

金武拾兩

是者会所詰五人給金、但老人ニ付壹ヶ年分金三両武分宛相渡申候、

金七拾九両永武百文

但金壹両ニ付壹石武斗五升かへ

是者水主武拾四人・肝煎四人・会所詰五人、九拾九石之扶持米代

相払申候、

錢三拾三貫文

是ハ水主武拾四人・肝煎四人・会所詰五人、但老人ニ付錢壹貫宛

塩増代ニ相渡申候、

金拾武両

是ハ水棹代相払申候

金拾兩

是ハ定式舟打金武拾八両宿方引請ニ御座候処、年々右之通足金

致候、

金四拾八両錢三百七拾武文

是者御大名様方御通行之時之御雇船并御雇水主代等被下置候ニ付、則雇揚候船代、雇水主江相払候分、其外蠟燭代、乗り場・上

り場等拵、水主小屋・会所修覆^(復)入用相払候分、

金武拾兩

是ハ炭・薪・筆・墨・紙・繩筵代并役人共江戸又ハ隣宿江罷出候

諸雜用、

遣払

ペ金八百七拾五両壹分永武百三拾五文七分

錢三拾三貫三百七拾武文

但金壹両ニ付錢七貫文かへ

武口

合金八百八拾兩壹分永三文五分

元高ト差引

金武兩永武百拾文六分

不足

是者請負人方差出仕埋候義ニ御座候

右者川崎宿六郷川去卯五月方辰四月迄諸入用諸払勘定仕書面之通御座

候、以上、

文政三辰年十二月

川崎宿

年寄

伝十郎

年寄

達右衛門

同

源内

名主

三右衛門

同

彦十郎

七郎左衛門

問屋

藤右衛門

御取締

御役人中

(後略)